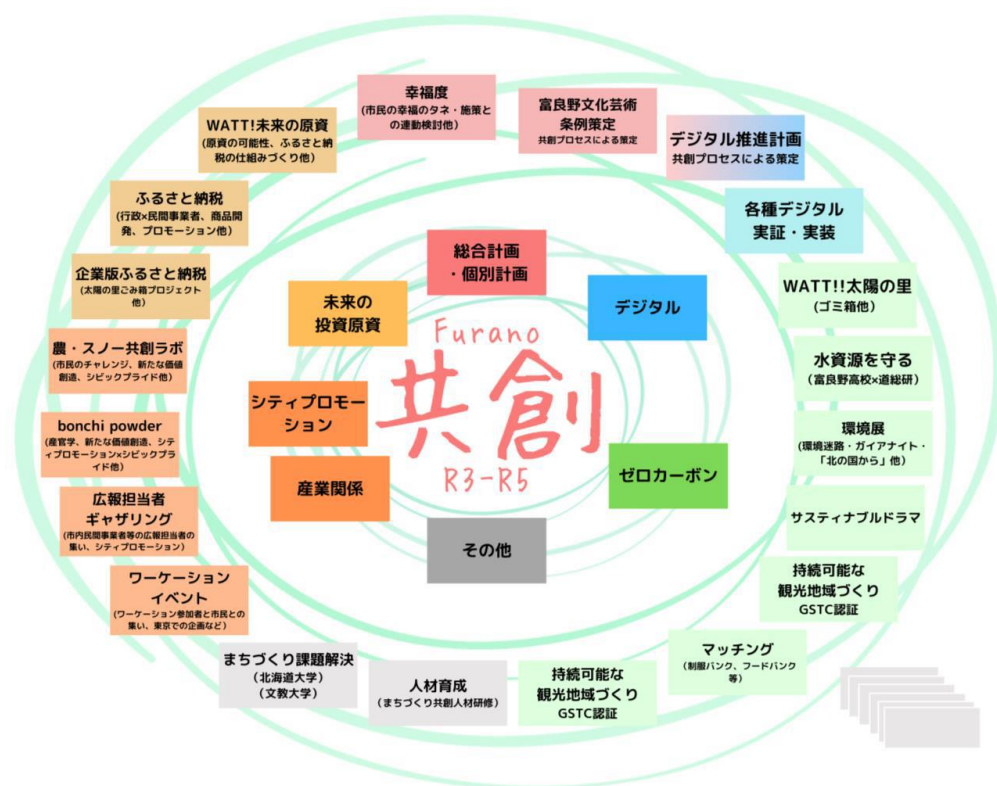


富良野市 共創まちづくり推進指針



(図：新たな「共創」の動き)

令和 6 年 8 月
富良野市

1. 本指針の策定目的

富良野市は、令和3年4月に「第6次富良野市総合計画」がスタートし、まちづくりのスローガンとして「『美しい』のその先へ。WA!がまちふらの」を掲げました。

このスローガンは“めざすべきまちの将来像”を表したもので、この将来像を実現するために、総合計画では、まちづくりを進める基本アプローチとして「共創」「デジタル」の2つを掲げました。

「共創」の取組は、少子高齢化や人口減少など、急速に社会構造が変化し、地域やコミュニティの課題が複雑化していくなかで、従来の方法や、行政の力だけでは課題を十分に解決することが困難な状況となっており、新たなニーズに対応し、地域としての新たな魅力を高めていくためにも、新しい価値創造や課題解決のアプローチとして、必要とされています。

また、総合計画策定のベースとなっているのが、「市民協働ワークショップ」や「まちづくり100人共創ワークショップ」といった、さまざまな人の対話や議論から生まれる多様な意見やアイデアでした。こうした“対話や議論”を大切にし、共創のまちづくりの文化を育んでいくといった思いが、総合計画の理念として込められています。

本指針は、総合計画がスタートしてから3年が経過し、これまでさまざまな共創の取組が行われてきました。こうした取組の結果から、本市の「共創」の基本的な考え方や進め方をまとめたものです。

この「共創のまちづくり」を進めるのは、市民・事業者・関係人口・行政など、富良野市に関わるすべてのみなさんです。本指針は「共創のまちづくり」の手法に限定したのではなく、その考え方を記載することで、みなさんが自由に、できるところから関われる、そうした環境づくりを進めることで、市職員はもちろん、市民のみなさんがまちづくりに関わるきっかけになればと考えています。

総合計画策定時に出された「共創」に関わるアイデアや視点

（総合計画156ページ「アイデアNOTE」より）

- ・ワークショップ（テーマ別：ふるさと納税／移住促進／女性・子育てなど）の実施
- ・イベント（新規ビジネスコンテスト・ハッカソンなど）
- ・イノベーション手法やファシリテーション手法の体験と育成
- ・クリエイティブスペースの創出
- ・クラウド型ワークショップ
- ・パブリック市民参加システム（アイデア公募→市民投票）
- ・大人未来づくりフォーラム
- ・みんつく予算、1%支援制度
- ・市民のアイデア窓口 など



まちづくり100人共創ワークショップ

2. 富良野市の共創とは

(1) なぜ、共創が必要なのか

人口減少、少子高齢化、過疎化、財政難など、社会課題が複雑化していくなか、SDGs、環境問題、GX、DX等、時代は変化し続けています。今後ますます複雑化する社会課題・地域課題への対応や、将来にわたり持続可能な市民サービスの維持、地域や経済の活性化を進めるためには、行政の力だけでは十分に解決することは困難になってきており、あらゆる地域資源を活用していくことが必要となります。地域に関わるすべてのひとたちと前例にとらわれない発想により、ともに新しい価値を生み出す「共創」のプロセスにより、まちづくりを行う必要があります。

(2) 富良野市の「共創」の概念

市民や企業・団体、関係人口、教育機関、行政などの多様な主体がビジョンや課題を共有し、対話を重ねることで、新しい価値を「共」に「創」り上げる、一歩進んだ協働・連携の形となります。複雑な課題に対して、あらゆる枠を超えて「共創」することで、ともに社会的課題の解決や新たな価値創造をめざします。

(3) 第6次富良野市総合計画中期基本計画より「2つの基本アプローチ『共創』」

○コンセプト「アイデアが生み出されカタチになる仕組みづくり」

【めざす状態8年後（令和12年度）】

アイデアが生み出され、「まちづくり」や「ひとの成長」に繋がっていく機会が継続的にある。創造的なアイデアが生まれやすい環境があり、さまざまな人が集まっている。

【主な施策 R5～R8年度】

- ▶「共創の場」の場の仕組みをつくります。
 - ・共創を促進する環境づくり
 - ・共創されたまちづくりのアイデアをカタチにする仕組みの推進
 - ・共創のまちづくりを推進する人材の育成

【KPIの設定】

KPI項目	目標（R5～R8）	R5の主な実績
テーマ別ワークショップの開催数	毎年 2回以上	・共創×デジタル意見交換会 ・農スノー共創ラボ
共創の機会から具現化したプロジェクト数	毎年 1件以上	・太陽の里資源回収ボックス設置 ・富良野市DX推進計画
まちづくり人材育成講座	毎年 2回以上	・富良野市共創スキルトレーニング研修（3回）

共創のイメージ

立場を超えてつながる
共通の目的

テーマに対して対話を深め
新たな価値創造

関わるひとそれぞれに
役割と責任

共創のまちづくりを進めて行くための姿勢・あり方として、お互いの想い、立場を理解し、対等で双方向な対話が不可欠です。また、ビジョンと課題を共有し、Win-Winな関係を築くとともに、テーマに対して対話を深めることで、新しい発想や取組、試行的な一歩（チャレンジ）に繋がります。さらに、共創を楽しく進めるには主催者や行政任せ、他人事ではなく自分ごと・みんなごとにするのが不可欠となります。

3. 共創の理解と実践について

（１）共創のまちづくりの主体

共創のまちづくりの主体は、市民一人ひとりや団体、企業、学校、地域、行政等です。

（２）行政の役割

行政は、前例にこだわることなく、これまで以上に、他の主体等と共に「共創のまちづくり」を進めるという意識を持ち、日常業務を進めていくようにしなければなりません。まずは、市職員一人ひとりが共創を理解し、意識しながら業務を進め、市役所全体として共創に取り組んでいく必要があります。その上で、市民に対し、市役所から共創をコーディネートしていくことが重要です。そのためにも市役所は共創を実践できる職員を育成するとともに、正解が分からないテーマだからこそ、やってみないとわからないことがあり、試行的な施策の検討やチャレンジを促進する環境づくりに取り組みます。

また、「共創のまちづくり」の考え方を、より多くの主体に広く周知し、主体自ら積極的に行動していただけるよう機運を醸成するとともに、市民等の主体が共創に取り組むきっかけづくりや、市外とのつながりを活用した価値創造の機会、話し合いを促進する場づくり等、必要に応じて柔軟にサポートする必要があります。

▶共創に係る総合窓口

富良野市役所 3階 企画振興課 電話 0167-39-2304

メール kikaku-ka@city.furano.hokkaido.jp

（３）市民一人ひとりや団体、企業、学校、地域等の役割

市民等の各主体は、これまでさまざまな形で地域課題を把握し、課題解決のために行動して

きました。今後も「自分たちの地域を良くしていく」という意識を持ちながら、世代や性別、職業等を問わずさまざまな主体が、それぞれのきっかけで参加することで共創が始まります。共通のテーマのもと対話を深め、課題解決に向けて、実践的な行動やチャレンジを行います。チャレンジの結果、たとえ失敗したとしても、実践を奨励し、次の機会に活かしていく風土づくりに努めます。

（４）共創の機会の創出

富良野市では、「共創」の取組を進めるため、第６次富良野市総合計画中期基本計画の重要業績評価指標（KPI）に基づき、以下の取組を進めます。

- ・テーマ別ワークショップの開催数 毎年 ２回以上
- ・共創の機会から具現化したプロジェクト数 毎年 １件以上
- ・まちづくり人材育成講座（市職員向け） 毎年 ２回以上

また、共創のまちづくりを促進する環境づくりと共創されたまちづくりのアイデアを形にする仕組みづくりについて、引き続き検討を進めます。

４．共創の取組モデル

今後の共創のまちづくりに取り組む際の手引きとして、次ページ以降、これまでの特徴的な事例を紹介いたします。実践の際の参考となるよう、事例ごとのポイント等をまとめています。

山部太陽の里の取組



●背景・目的

令和3年度からスタートした第6次富良野市総合計画の重点施策の1つの“アイデアが生み出されカタチになる仕組みづくり”を進めるため、具体的テーマによる共創の実践や、市民参加を促す仕掛けづくりのトライアルを行うことで、富良野市の「共創のまちづくり」のプロトタイプづくりを目的として実施しています。

●内容

富良野市役所内に「共創」を推進する庁内横断のプロジェクトチームを立ち上げ、具体的テーマの設定やワークショップ・フィールドワーク等の内容検討、また、共創を進めるための協議を重ねました。具体的な共創テーマとしては、令和元年度に実施した100人協働ワークショップ等で「山部太陽の里」という貴重な自然資源をもっと活用した方が良くという声が多くあったことから、太陽の里の魅力化についてテーマ設定し、数度のワークショップ等を実施後、複数のアイデアの中から厳選し、資源回収ボックス（ゴミ箱）の魅力化をテーマに設定し、共創的な実践を行いました。

【令和3年度の主な動き】

・第1回ワークショップ

フィールドワーク素材探し、LINEオープンチャット、アイデアマップづくり など

・第2回ワークショップ

第1回ワークショップで出されたアイデアからの具体的な実践の検討 など

・YouTubeを利用した公開アンケートの実施



上：第1回WSの全体写真 下：第1回WSの動画

【令和4年度の主な動き】

・第3回ワークショップ

具体的実践の資源回収

ボックス（ゴミ箱）の内容検討 など

・山部小学校（探求学習）との連携

・プロトタイプのリソース回収ボックスの仮設置

【令和5年度の主な動き】

・クラウドファンディング型ふるさと納税を活用した資源回収ボックスの設置 など



●取組年度

令和3年度～令和5年度

●共創に取り組んだ団体等

市民、市外（関係人口）、NPO法人、市

●共創・取組ポイント

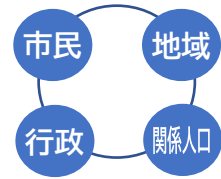
・市民、NPO、市職員等が立場を超えてフラットな形での対話を意識しました。

・結論ありきではなく、対話の過程で次のステップを参加者で決めました。

・思考錯誤や実践を積み重ねながら、一歩ずつ前に進むことを大切にしました。

・リサイクルのまちを意識して、実践しています。

農・スノー共創ラボ



●背景・目的

第6次富良野市総合計画に掲げられている「シティプロモーション」について、令和4年度から庁内外で検討が行われてきました。その中で、富良野市におけるシティプロモーションは、「メイン産業の再興」と「シビックプライドの醸成」を目指し、日常にある“当たり前”にスポットライトを当て、その価値の最大化・発信・体験を通じて“誇り”を醸成していくプロセスを創り出していくこととされました。令和5年度は、市民の共創により新たな価値を創出していくことを目指しました。

●内容

当たり前にある価値を最大化していくアイデアを具現化していくためのプロジェクトとして、年齢も性別も職業もちがう公募のメンバー13名による「農スノー共創ラボ」をスタートさせました。農スノー共創ラボでは、富良野のメイン産業である農（農業、農作物、食など）とスノー（雪、冬、自然など）をテーマとして設定し、その価値を最大化していくアイデアを出し合い、事業化などすることで地域が稼げる状態を創り出すことを目標としています。

この間、富良野の魅力や資源を再確認しながら、メンバーそれぞれの想いやアイデアの具現化に向けて議論してきました。今後は、令和6年秋に開催されるイベントでのテスト販売を当面の目標にブラッシュアップを重ねていきます。



第1回農スノー共創ラボの様子

●主な動き

- ・広報6月号でメンバー募集
- ・第1回農スノー共創ラボを開催（6/28）以降、毎月の定例ラボを開催
- ・6次産業化に関する勉強会（12/19）
- ・ウインタービジネスに関する勉強会（3/22）
- ・事業化に関する勉強会（3/26）

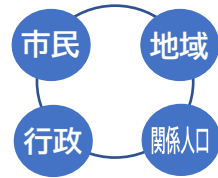
●農スノー共創ラボのメンバー

農業、団体職員、不動産業、教職員、自営業、公務員、建設業、無職 計13名

●共創・取組ポイント

- ・年齢、性別、職業、立場等を超えて対話しやすい雰囲気づくり。
- ・意見に対し否定することなく、常に建設的に進める。
- ・市は、情報提供など場の支援を中心とし、ラボ（市民）が自走することを意識する。

共創×デジタルの取組



●背景・目的

令和2年度に策定したICT利活用推進計画が3カ年を経過し、市民の意見やアイデアを反映した次期計画策定に向けた取組として、デジタル技術の利活用の動きにより一層の磨きをかけ、住みやすい富良野としていく構想とするために、「共創×デジタル意見交換会」を実施しました。



意見交換会「しごと編」の様子

●内容

できるだけ幅広いジャンルの市民と対話をするため、「しごと」「子育て」「シニア」「ケア従事者」「学生」の5テーマでワークショップ形式の意見交換会を開催しました。共通の流れとしては、デジタル化の情勢共有のあと、暮らしの中のデジタルを考える時間、最後に意見交換とまとめ発表で2時間程度。具体的な行動のアイデアから「こんなまちになってほしい」といった将来像まで、デジタルの枠を超えた多くの視点や意見が出されました。さらに、5テーマの参加者を一堂に会して「総集編」として、すべての意見を共有し、市外の参加者も加えた意見交換の場を設けました。

【しごと編の主な意見】

- ・人材不足／マッチング、シェア
- ・まちのPRを勝手にしたくなる仕掛け
- ・家賃補助、起業（ECビジネス等）支援

【子育て編の主な意見】

- ・予防接種、遊び場、習い事情報
- ・オンライン子育て相談
- ・食事準備支援

【シニア編の主な意見】

- ・不審電話、メールへのリスク対応

- ・保健・医療・福祉の情報
- ・世代間交流、除雪、空き家
- 【ケア従事者編の主な意見】
- ・「デジタル＝怖い」、詐欺への対策
- ・マンパワー不足（ボラ、民生委員等）
- ・ごみ出し・除雪・買い物・料理・交通

【学生編の主な意見】

- ・自動運転、セルフレジ、セルフショップ
- ・高校跡地の有効活用
- ・回覧板のデジタル化

●取組年度

令和5年度

●共創に取り組んだ団体等

市民、市外の方、市

●共創・取組ポイント

- ・参加者が立場を超えてフラットな形での対話を意識しました。
- ・デジタルはあくまでもツールであることから、デジタルにこだわり過ぎず、住みやすいまちづくりのためにあるべき姿についての意見交換としました。

「共創」のためのキーワード

KEYWORD

★オープンにつながる

多様な方が集まる。肩書や序列などではなく、
フラットな関係。それぞれの持つ経験や
能力、想いなどによって化学反応が
起こりやすい場をつくる。

★対話

絶対の答えがない複雑な課題。
何が起きているか構造をみんなで探り、
ありたい未来を描く。
好奇心と探求心で対話を深める。

★（できることを）やってみる・改良する

対話によって浮かび上がってきた
アイデアを、実際に具現化していくために、
役割を適切に分担しながら試行してみる。
やってみて見えてくることをもとに、
さらに改良していく。

富良野市総務部企画振興課

〒076-8555 富良野市弥生町1番1号

電話 : 0167-39-2304

Eメール : kikaku-ka@city.furano.hokkaido.jp